

Schedule

海渡りの日

令和4年9月23日(祝) 10:30 ~ 17:00

《海渡り》作品公開

令和4年9月24日(土) ~ 10月15日(土)

糸あげの日

令和4年10月16日(日) 15:00 ~ 17:00

弁天様のお祭り

*旧暦9月26日

令和4年10月21日(金) 11:00 ~ 13:00

五十嵐靖晃「海渡り」2021年つなぎ美術館 写真三迫太郎

五十嵐靖晃 海渡り

IGARASHI Yasuaki "Umizwatari"

つなぎ美術館
TSUNAGI ART MUSEUM

2018年、熊本県津奈木町の地域資源をアートにより再評価し、活性化につなげるアートプロジェクト「つなぎまちのつなぎかた」がアーティストの五十嵐靖晃により始まりました。3年に及びリサーチと対話により生み出された《海渡り》は、古くから旧暦9月26日に行われてきた「弁天様のお祭り」を、町内外の人々と共にアートの力によって再構築し、後世に受け継いでゆくことを目指して毎年行われる、新しいかたちのアート作品です。

令和4年《海渡り》スケジュール

1. 海渡りの日

9月23日(祝) 10:30~17:00 (参加自由)

… 参加者全員で赤い糸を持って海を渡り、島と陸をつなぎます。(13:38干潮) 完成後は競舟の乗船体験を行う予定です。

2. 《海渡り》作品公開

9月24日(土)~10月15日(土) (無料公開)

… 島と陸をつなぐ100本の赤い糸が空に浮かぶ作品《海渡り》を展示します。

3. 組紐ワークショップ ※関係者のみ

10月7日(金) 10:00~14:00

… 津奈木小学校の3年生に組紐を体験してもらうワークショップを行います。

4. 糸あげの日

10月16日(日) 15:00~17:00 (参加自由)

… 参加者全員で赤い糸を引き上げ、鳥居を元に戻します。(18:08干潮)

5. 弁天様のお祭り*旧暦9月26日

10月21日(金) 11:00~13:00 (参加自由)

… 島の祠の弁天様に、津奈木の町の無事を祈ります。(12:08干潮)

※新型コロナウイルス感染症感染拡大防止等のため内容を変更する場合があります。※荒天時は中止します。

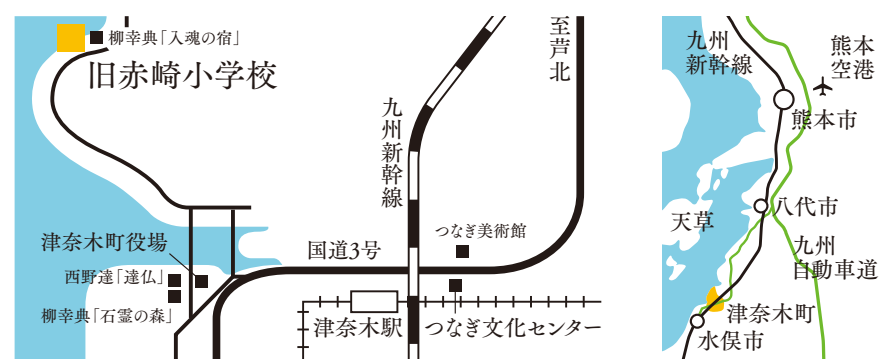
会場:旧赤崎小学校付近

(熊本県葦北郡津奈木町福浜165番地)

主催:津奈木町、つなぎ美術館/協力:津奈木海龍
企画・構成:楠本智郎、濱田真大/映像:仲信達也
広報物編集・デザイン:三迫太郎

【つなぎ美術館】〒869-5603 熊本県葦北郡津奈木町岩城494

TEL 0966-61-2222 FAX 0966-61-2223 tsunagi-art.jp



◎昨年度の《海渡り》の様子: 1.参加者たちが陸から島に糸を運ぶ/2.号令をかける五十嵐靖晃/3.力強く糸を引く海龍メンバー/4.かつて弁天島にあった鳥居が復活し、清祓式を行った/5.弁天様のお祭りを一人で続けてきた松田テル子さん(左)/6.完成した作品は18日間公開された

海に座る。

今年も弁天島を舞台に行われる《海渡り》に向けて、五十嵐靖晃と競舟チー ム「津奈木海龍」の新立誠さんの二人で オンライントークを行いました。

五十嵐:僕が最初に誠さんと会ったのがリサーチの時。どうやら津奈木町のいろんな人を巻き込めるかなと思っ て、みんなのハートが何に反応するの か になって知りたくて。

そこで誠さんから聞いたのが競舟の話。津奈木では昔から命をつなぐた めに漁をしていて、魚を獲った後は集落こ とに、競い合うように舟をこいで帰っ てきてたんだって聞いた時に、「ああ、津 奈木が地区対抗の運動会とかで盛り 上がる理由ってそれがきっかけだし、そ れの象徴が競舟なんだな」って思った。 だから、競舟には津奈木文化の一つの本 質があるなって思う。

特に印象に残ってるのが漕ぎ手たち の白黒写真があったんじゃないですか。 新立:はいはい。じいちゃんたちですね。 五十嵐:上半身裸で、筋骨隆々の男衆 がずらっと舟の上に並んでる写真が あって、それがめちゃくちゃ格好良 くて、左から何番目がうちのじいちゃん ですよ。みたいな話を誠くんがして、そのと きに聞いた「子どもたちと海との距離 が少し遠くなったように感じる」って 話もすごい印象に残ってて。

競舟をきっかけにもう一度、子どもた ちと触れ合い、海と触れ合えるような 機会を一緒につくっていったらという 新立:そうですね。なんていったって人 だと思っんですよ。熱い気持ちを持っ て いる人たちが集まってくる場所だから、そ れをみんなで楽しく安全に体験できたら、 素晴らしいものができるんじゃないかな かってやっぱり思っちゃいますね。 五十嵐:そう、良いこと言うよ。そう だよ。ね。熱い気持ちを持つて人が心を 動かされて寄ってくるんだらうね。だか ら、競舟に乗った時に僕も火をつけられ ちゃった、ついちゃうよね、やっぱり、火が。 そういう力がある「お祭り」だよ。ね。

自分が楽しんでる姿を 五十嵐:誠くんは「楽しむセンス」があ るよね。 新立:自分が楽しんでる姿を見させて ると、若い子たちも真似してくるってい うのが分かってるから、楽しむことって すごく大事だなって思いますね。 五十嵐:《海渡り》の実験で糸を張っ た後に、誠くんが「本番はもっときれいに 張りたいって言ったでしょ。 新立:はいはいはい。 五十嵐:あれも今の話にも通ずるな と思っって。自分が楽しんでるってい う か、自分が関わることでもっといい風景 を一緒に作りたいたいって言葉が自然 に出てた。あの時、「あ、これは成功した な」と思った。

新立:そうですね、やるからにはやっぱ り全力で楽しみたいし、みんなに「やっ て良かったね」って思わせられたらすこ

とカリズムを合わせて溶け合っ て、エネ ル ギーの塊になってくような感覚。その後 に聞かえてくる風の音とか、虫とか、鳥 の声まで変わってしまう感覚っていうの は子どもたちがもっと体験したほうが いいだろうなって。

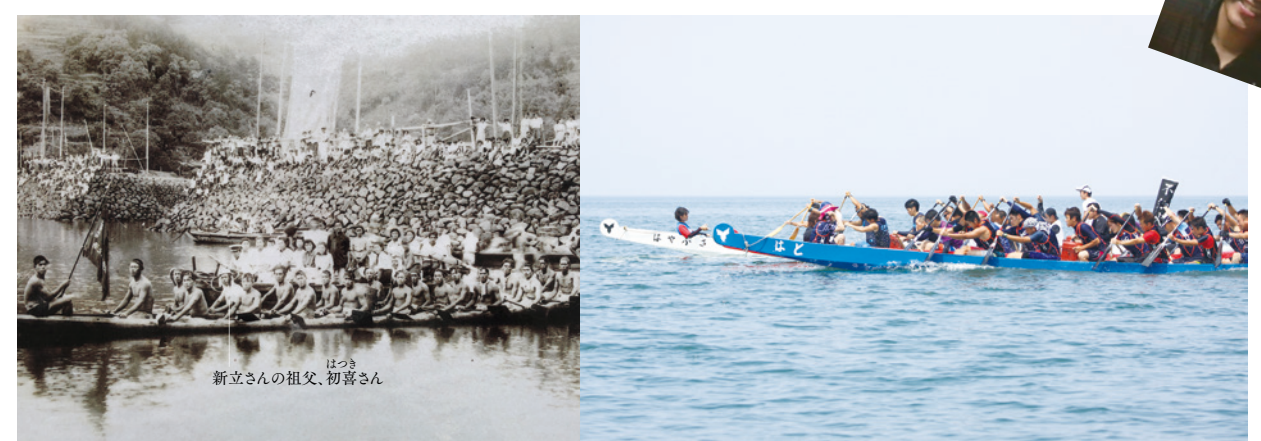
競舟は間違いなく津奈木の文化の 柱だと思っから、地元の人を中心に多 くの人に知ってもらえる感じで体感し てもらえる舞台として機能させたいと 思う。でも、やっぱり人だよな。

五十嵐靖晃

いがらし やすあき / アーティスト

1978年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。人々との協働を通じて、その土地の暮らしと自然とを美しく接続させ、景色をつくり変えるような表現活動を各地で展開。アートとは「自然と人間の関わり」であると考え、2005年にヨットで日本からクロネシアまで約4000kmを航海した経験から“海からの視座”を活動の根拠とする。代表的なプロジェクトは、樟の社を舞台に千年続くアートプロジェクトを目指す福岡県太宰府天満宮での《くすかき》(2010~)、漁師と共に漁網を空に向かって編み上げ土地の風景をつかまえる《そらあみ》(瀬戸内国際芸術祭2013・2016・2019)、南極にて子午線を糸に見立て世界各地の人と組んだ紐で共に風を揚げる《時を束ねる》(南極にエンターレ2017)など。 <http://igayasu.com>

く気持ちいい。自己満なんですけど。 五十嵐:でも、そうだよ。楽しそう にしてる姿を見るのがやっぱり一番わ かってることなのかもしれないね。



*大泊、日添、日当の3地区で競舟大会をしていた頃の写真(昭和22年頃) 江戸時代末期から続く競舟大会。2017年から台風、新型コロナウイルスなどにより休止中。